

春日 隆司 議員



厳しい財政状況で 今後、住民サービスが低下するのか

町長 住民にも我慢していただくところは我慢していただく

住民サービスの低下

質問 財政状況（硬直化）をどう考えているか。

町長 基金取崩しが近年進んでいる。公債費などもふくらんでいる。財政運営をしつかり図っていくよう、指示を出した。

再質問 このような状況になった根源と責任の所在は。

町長 私が責任を持ってやらなければならぬ。財政規律をしつかり厳守しながら今後も進めてまいりたい。

再質問 令和4年が借金返済のピーク。前後10年間は本当に厳しい。来年度は人件費と借金返済で1億2,000万円増える。町民にも認識していただき、町民一体となって乗り切っていく必要がある。今後、住民サービスが低下するのか。

町長 補助金などのサービスはどうしても低下してしまう。人的サービスは維持していく。住民にも情報公開していきたい。

再質問 住民サービスが低下する中で、町長自ら経費を節減する考えは。

町長 町民懇談会でもしっかりと説明した。住民にも我慢していただくところは我慢していただく。様々な施策・経費面は、少しでも縮減できる方向で指示を出した。

持続可能な開発目標（SDGs）の考え方

質問 SDGsの考えを地方創生に取り入れたのは社会の分断を解消するためである。説明責任のある透明性の高い町をつくっていくことを共有すべきでないか。

町長 地域課題を解決していく上で体系・統合化の意図でSDGsの手法を取り入れることが非常に効果がある。

再質問 菓子製造事業で、町民の分断が進んだのではないか。連携企業から合意形成が不十分と指摘された。第三者から合意のあり方、行政運営について問題提起された。こういうことがあって良いのか。信頼を裏切らないよう、協定に基づき誠実に対応したのか。

町長 計画どおりに進まないこともある。町の責任のもとに手続きの不備があり連携企業との信頼関係が損なわれてきた。

再質問 透明性の高い議論をするのがSDGsの手法。見せかけではなく、SDGsを進めていく必要がある。

持続可能な森林経営の実態

質問 持続可能な森林経営（60年サイクルで毎年50ha植えて伐る）の実態が崩れている。見せかけだと外から信頼されなくなる。実態に合わせ基本的な考え方を変える必要があるのではないか。

町長 サイクルが崩れているが、今後も目標として進めていきたい。

再質問 分断を解消して町民一丸となって進むとの力強い決意は。

町長 行政と住民の協働によるまちづくりに対して参画を募り、また行政から飛び込んで共にまちづくりを進めていきたい。